



世界初

鯨革2種の

開発に成功



この日、世界初の鯨革2種の開発に成功したと吉報を持って市役所を訪れたのは、革職人の中山智介さん。

もともと手先が器用で物づくりがしたかったという中山さんは、金属加工などの技術を学ぶために長崎歯科技術専門学校を卒業。県外で歯科技工士として経験を積んだ後、生まれ育った大村で工房「銀職庵 水主」を開業します。以降、革の食器などさまざまな皮革製品を精力的に生み出してきました。

鯨革の開発では、鯨の生皮を入手する段階から困難に直面。商業捕鯨が可能となったタイミンブから捕鯨会社と粘り強く交渉を続け、入手可能となったから約3年を経て製品化に成功しました。「もとは生き物ですから、100%使い切るのが最低限の礼儀。革では実現できると確信しているので、意地でも達成したい。今の一番の目標です」と話す中山さん。今回開発された鯨革「二百」ヒヤクニは、ニタリ鯨やイワシ鯨の胃・腸を活用したもので、中山さんの物づくりへの想いがうかがえます。

「完成品は自分が思い描いていた鯨革を超えていてすごいなと思ったが、喜びは一瞬。すぐに次を考えた」と話す中山さんは、既に次の鯨革の開発に動き出しているそうです。これからも中山さんの挑戦は続いていきます。

銀職庵 水主

なかやま ともすけ

中山 智介さん

Profile...

昭和55年4月24日生まれ。三城小・大村中・大村城南高校卒業。平成20年から水主町で皮革製品・貴金属製品工房「銀職庵 水主」を営む。Japan leather award4年連続受賞。



クローズアップ
大村人
vol.47

このコーナーは、ふるさとを思いながら、市内外で活躍する「大村人」を紹介합니다。

